

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

成長ホルモン自己注射におけるアドヒアランスに関する要因の検討
～デバイス特性と看護支援に着目して～

2. 研究責任者(当院)

所属：聖隷佐倉市民病院
氏名：有川 邦子

3. 分担研究者

所属：聖隷佐倉市民病院
氏名：八代 暁子、川村 研

4. 研究対象者

当院で成長ホルモン治療を導入した患者 150名

5. 研究の必要性

成長ホルモン治療は長期にわたる自己注射が必要であり、治療効果を得るためには継続的な注射の実施、すなわちアドヒアランスの維持が不可欠である。しかし、自己注射に伴う疼痛や手技の煩雑さ、思春期における本人による自己注射とその管理の移行等により、治療継続が困難となる症例も少なくない。近年操作性や負担軽減を目的とした複数の注射デバイスが使用可能となっているが、デバイスの違いが治療継続にどのような影響を与えるかについては実臨床における検討は十分とはいえない。また、デバイス選択（PatientChoice）や継続支援について看護師が重要な役割を担っているにも関わらず、その要因がアドヒアランスに影響するかを踏まえた具体的な指針は明確ではない。そこで本研究では、当院における成長ホルモン自己注射患者を対象に、デバイスの種類や患者背景、治療継続状況との関連を明らかにし、アドヒアランス向上に向けたよりよい看護支援のあり方を検討することを目的とする。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は既存の診療記録を用いた後方視的観察研究であり、研究のため新たな検査や介入を追加するものではない。そのため、対象者に身体的負担や治療上の不利益が生じることはない。個人情報の取り扱いに伴ったプライバシーの侵害のリスクは考えられるが、データは匿名化し、個人が特定されないよう十分配慮して管理することで、そのリスクは最小限である。

成長ホルモン治療においては、アドヒアランスの維持が治療効果に直結する重要な課題である。本研究により、デバイスの種類や患者背景、治療継続状況との関連が明らかになることで、アドヒアランス低下の要因を把握することが可能となる。これにより、患者の年齢や自己管理能力に応じた適切なデバイス選択や、継続支援の具体的な看護介入の検討につながり、治療継続率の向上と治療効果の最大化に寄与することが来される。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1155
担当者氏名：有川 邦子
対応時間：平日 08:30～17:00（平日）